

平成28年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

高等学校における特別支援教育の充実を図るための、個を伸ばす指導の充実と自立活動を取り入れた教育課程の編成に関する研究開発

2 研究の概要

特別な支援を必要とする生徒が多く在籍している定時制高等学校において、自立と社会参加に向けた指導体制の充実を図るために、自立活動に相当する指導と障がいに応じた各教科・科目の補充指導を行う領域「グロウアップ」を設定する。

また、現行の教育課程における「分かる授業」、ソーシャル・スキル・トレーニング（SST）、就業体験の実施による個々の能力・才能を伸ばす指導と併せ、基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的な生活習慣の形成を図る。

さらに、個別の教育支援計画・指導計画の作成、実施、評価を通して、保護者、中学校、地域との連携を図り、特別な支援を必要とする生徒の職業的自立を目指した指導の在り方について研究する。

第3年次（平成28年度）は、対象生徒の進路決定の年であった。本人、保護者の意向に沿った進路実現がなされ、昨年度よりもいっそうコミュニケーション能力の向上、社会に出るための準備等、必要な能力の形成について一定の成果が得られたと考える。一方、高等学校における自立活動の在り方（教育課程への位置付け、専門性の担保、指導内容等）については今後の課題としてさらに研究を深める必要がある。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

- ① 多部制・単位制の定時制高等学校の特性から、不登校経験者や発達障がいのある生徒など、基礎学力、コミュニケーション能力、基本的な生活習慣の形成において課題のある生徒が多く在籍している。また、複雑な家庭環境を背景として、学校生活や卒業後の社会的自立に不安を感じている生徒も多い。

対象生徒は平成26年度から継続して自立活動を行ってきた「自閉傾向」の生徒Aと「自閉症スペクトラム」の生徒Bに今年度より「広汎性発達障がい」の生徒Cが加わった。いずれの生徒も基本的な生活において、ほとんどの分野の成長が年齢相当に達していないため、通常の学習指導から就労または進学に結びつけることが困難であり、自立活動に相当する指導を必要としている。

対象生徒	診断名	WISC-IV
生徒A	自閉傾向	FSIQ=78 VCI=95 PRI=74 WMI=79 PSI=76
生徒B	自閉症スペクトラム	FSIQ=77 VCI=53 PRI=93 WMI=94 PSI=91
生徒C	広汎性発達障がい	(WISC-III) FSIQ=73 VIP=75 PIQ=76

- ② このような現状において、将来の自立と社会参加、特に職業的自立に役立つ知識と社会性を学校教育の中で身に付けていく指導体制を整備することが研究の目的である。そのために、教育課程の中に自立活動に相当する指導を取り入れ、対象生徒を個別に指導し、学校生活への適応と卒業後の職業的自立を目指す。

(2) 研究仮説

- ① 自立活動に相当する領域「グロウアップ」を教育課程に位置付け、自立活動に相当する指導（個別のSST、「健康・運動・栄養」・「経済」・「コミュニケーション」を中心とした個別のライフ・スキル・トレーニング(LST)、障がい者就労に係わるインターンシップ等）と障がいに応じた各教科・科目の補充指導を行う。
- また、他の生徒と共通の教科・科目においても、一斉授業の改善による「わかる授業」づくり、学年全生徒に向けてのSSTや就業体験等を実施し、個々の能力・才能を伸ばす指導を行う。
- ② これらの指導を通して、基礎学力、コミュニケーション能力、基本的生活習慣を身に付けることによって、特別な支援を必要とする生徒の学校生活への適応と職業的自立が、より促進されると考える。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
<p>① 自立活動に相当する領域として「グロウアップ」を設定する。</p> <p>② 普通科Ⅰ部は「国語総合」（1年次5単位）において、普通科Ⅱ部は「国語総合」（1年次3単位）及び「数学Ⅰ」（1年次4単位）において、対象となる生徒を取り出す。</p> <p>③ 普通科Ⅰ部は2～3年次において、普通科Ⅱ部は2～4年次において、選択群の中に「グロウアップ」を置き、対象生徒に対して選択科目の</p>	<p>① 個別のSST 自立活動の「6コミュニケーション」の内容を踏まえ、スキルの定着を目標としたトレーニングを実施する。</p> <p>② 個別のLST ア「健康・運動・栄養」 イ「経済」 ウ「コミュニケーション」 自立活動の「1健康の保持」、「4環境の把握」、「5身体の動き」、「6コミュニケーション」の内容を踏まえ、生活スキルの定着を目標としたトレーニングを実施する。</p> <p>③ 障がい者就労に係わるインターンシップ</p>	<p>① Ⅰ部、Ⅱ部ともに、1年次は70～105単位時間・2～3単位で実施する。</p> <p>② Ⅰ部2～3年次、Ⅱ部は2～4年次は、70～280単位時間・2～8単位で実施する。</p>

<p>授業時間帯に通級による指導を行う。</p> <p>④ 「グロウアップ」の指導は、校内に設置した通級指導教室（リソースルーム）において、自立活動等担当教員が実施する。</p>	<p>インターンシップ（2年次）の事前指導を実施する。</p> <p>④ 障がい者就労に係る就労実習を実施する。</p>	
---	--	--

（４）個々の能力・才能を伸ばす指導（現行指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ① 「分かる授業」づくり
 - ・学習目標、学習内容を明確にし、授業の焦点化を図る。
 - ・ICTを活用し、授業の視覚化を図る。
 - ・ユニバーサルデザインを基にした教材作りを行う（必要に応じてルビをふる等）。
 - ・プリントを多く活用した授業により、要点を抑えた学習になるように図る。
 - ・実技教科においては学習の手順を明確にして行なう。
 - ・「学びの共同体」を踏まえた授業づくりを行う。
- ② SST
 - ・総合的な学習の時間において、「折り合いをつけるスキル」、「上手に断るためのスキル」、「怒りのコントロール」等、日常生活を円滑に行なうためのトレーニングを実施する。
 - ・就業体験や企業訪問に向けた、あいさつの仕方、電話対応、質問の仕方等の実践的なトレーニングを実施する。
 - ・学校生活の中でSSTの汎化を図る。
- ③ 対人関係ゲーム
 - ・総合的な学習の時間において、対人関係ゲーム（他者と触れ合うゲーム、他者と協力・連携するゲーム、他者と折り合いをつけるゲーム等）を行い、他者に心を配ることができるように指導する。
- ④ インターンシップ(就業体験)
 - ・障がい者就労のためのインターンシップを行うことで、本格的な職業訓練に臨む。
 - ・将来を見据えた職業観を育む。

（５）研究成果の評価方法

- ① 基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的生活習慣の形成、それぞれの課題について、標準化された検査・テストによる客観的評価を実施し、研究成果を検証する。
- ② 対象生徒による、自立活動の有効性や満足度の評価、リソースルームの評価を行う。
- ③ 「自立のためのチェックリスト」（特定非営利活動法人フトゥーロ・LD発達相談センターかながわ）に従って作成したチェックリストを使用し、評価をする。
- ④ 特別な支援を必要とする生徒に対する個別的教育支援計画・指導計画を作成し、計画を実施することで得られた成果等を評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

- ① 自立活動に相当する指導と障がいに応じた各教科・科目の補充指導を行う領域「グロウアップ」（年間2～8単位）を設定する。
- ② 「グロウアップ」において、個別のSSTを実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ③ 「グロウアップ」において、「健康、運動、栄養」・「経済」・「コミュニケーション」を中心とした個別のLST及び、障がい者就労に係るインターンシップを実施し、基本的な生活習慣の形成と職業的自立を図る。
- ④ 「グロウアップ」において、特に必要があるときには、障がいの状態に応じて各教科・科目の補充指導を行う。
- ⑤ 就職活動に向け、就労アセスメントを実施する。
- ⑥ 「グロウアップ」の評価については、基礎学力の定着、コミュニケーション能力の向上、基本的な生活習慣の形成、それぞれの課題について、標準化された検査・テスト・チェックリストによる客観的評価を実施する。

(2) 全課程の修了認定の要件

自立活動について、1年次70～105単位時間、2～4年次70～280単位時間のうち、各年次とも4分の3以上の出席で単位を認定する。

卒業に必要な74単位の他に自立活動で修得した単位を、当該生徒の卒業までに履修または修得すべき単位数のうちに加えることができる。

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次 (26年度)	<ul style="list-style-type: none">・校内研究委員会の設置・運営指導委員会の設置・個別の教育支援計画・指導計画を作成、実施、評価・「グロウアップ」の設定と一部試行的実施（特別の教育課程）・高等学校における自立活動の指導内容・方法の検討・リソースルームでの指導と通常学級での指導との連携についての検討・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行教育課程）・生徒、保護者、地域への理解啓発活動・研究成果の1年次のまとめ
第2年次 (27年度)	<ul style="list-style-type: none">・個別の教育支援計画・指導計画の修正、実施、評価・「グロウアップ」の全体試行的実施（特別の教育課程）・「グロウアップ」の在り方の検討・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行教育課程）・学年実施の就業体験の事前・事後指導・研究成果の2年次のまとめ
第3年次 (28年度)	<ul style="list-style-type: none">・個別の教育支援計画・指導計画の修正、実施、評価・「グロウアップ」の実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・「グロウアップ」設定の成果と課題についての検討 ・個々の能力・才能を伸ばす指導の実施（現行教育課程） ・支援対象生徒の就労等における追跡調査 ・就労アセスメントの実施 ・障がい者就労に係る「インターンシップ」の実施 ・就業体験の成果と課題についての検討 ・生徒、保護者、地域への理解啓発 ・研究成果のまとめ
--	---

（４）評価に関する取組

	評価方法等
第1年次 (26年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制整備の有効性についての評価 ・現行教育課程における取組の有効性についての評価 ・リソースルームでの個別指導の有効性についての評価
第2年次 (27年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・リソースルームにおける支援体制の有効性の評価 ・高等学校における自立活動の有効性の評価 ・高等学校の教育課程における自立活動の時間の設定の評価 ・関係機関と連携した支援の有効性についての評価
第3年次 (28年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・現行教育課程における取組の有効性についての評価 ・リソースルームにおける支援体制の有効性の評価 ・高等学校における自立活動の有効性の評価 ・高等学校の教育課程における自立活動の時間の設定の評価 ・関係機関と連携した支援の有効性についての評価 ・支援対象生徒の変容についての評価 ・研究校としての総合的なまとめと運営指導委員会での総合的な評価

5 研究開発の成果

（１）実施による効果

生徒Aについて担任からは、「進路決定に向けて自ら担任のところへ来るようになった。しかし、まだまだもじもじしていたり、教員の様子をうかがっていたりなど、言葉で伝えることに困難があると感じられる。一方、クラスメイトに頼まれたことは責任を果たすことができる。文化祭で与えられた仕事（フライドポテトを揚げる）については黙々と最後まで続けることができた。」という評価がされた。

生徒Bについて担任からは、「クラスメイトとの会話は少しではあるが増えたように感じられる。自立活動を通して自己肯定感や学校への安心感、帰属意識等、1、2年次にはなかった面が見られるようになった。」という評価がされた。

生徒Cについて担任からは、「以前は提出物などを持ってきていても提出することができなかった。表情にも変化がなく無表情に近かったが、最近は少しずつ自分の意見も言えるようになり、相手の冗談に笑う場面も見られるようになった。」と評価がされた。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

高等学校に自立活動を導入することで、教員に新たに追加された分掌や分担、業務は何か。また、そのことに関わる勤務時間の増加など、無理なく機能するシステムを構築していくための業務整理や業務把握が必要である。

高校生としての自尊感情があるため、他の生徒の目に触れないようにリソースルームの入退室の時間を多少ずらすなどの配慮は行ってきた。通級による指導の円滑な運用に向けて、生徒のプライバシーが守られるような希望調査、個別の相談の実施方法等についての検討が必要である。

現段階では、教員が対象の生徒のピックアップを行っているが、今後は生徒が自ら自身の障がいを認識し、困難さを克服するために、自ら自立活動の受講を希望することができるようなシステムの構築について研究を深める必要がある。